

昭和四十六年四月招集

昭和四十六年五月招集

昭和四十六年六月招集

千葉県館山市議会議録

館山市議会議会

第二回館山市議會臨時會會議錄

第二回館山市議會臨時會會議錄目次

日時	三
場所	三
出席議員	三
欠席議員	三
出席説明員	四
出席事務局職員	四
議事日程	四
開會	五
出席説明員の報告	五
議案の配付	五
會議録署名議員の指名	五
会期の決定	六
提案理由の説明	六
議案の上程（報告第一号）	七
議案の内容説明	八
採決	八
議案の上程（議案第五十一号）	九

議案の内容説明	九
採決	一一
議案の上程（議案第五十二号）	一二
議案の内容説明	一四
採決	一五
議案の上程（議案第五十三号）	一五
議案の内容説明	一五
採決	一六
閉会	一六
本日の会議に付した事件	一六

昭和四十六年四月招集

一、館山市議会本会議場

一、欠席議員	二	二	二	二	一	一	一	一	五	三	一
	九	七	五	三	九	七	四	〇	五	三	一
六名	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番
	鈴木	安沢	田村	飯田	島野	江田	遠山	西村	藤田	嶋田	吉田
	市	徳	源治	義	茂樹	徳太	ヨネ	真	益	石	勇治
	藏	順	郎	男	郎	郎	子	次	治	藏	郎

三	二	二	二	二	一	一	一			
○	八	六	四	二	八	五	一	九	四	二
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番
山	望	秋	田	小	安	石	菊	三	伊	石
口	月	山	中	沢	西	井	井	幣	賀	井
		六	禄	恵	益		敏		多	輝
	照	三		太						
康	正	郎	郎	郎	男	正	博	勇	朗	久

一、出席説明員
 一六六番番番
 五黒磯
 十川辺
 嵐
 昇正博

市役所長 本間哲三 議
 収入役 高木澄男
 庶務課長 小倉伊藤幸太
 企画課長 伊藤幸太
 教育委員 高木正郎
 教育委員 吉田隆夫
 学校教育課長 吉田隆夫

一、出席事務局職員

事務局局長 高梨清一
 書記 兵藤恭一
 書記 渡辺英弘
 書記 福田雄

一、議事日程

昭和四十六年四月七日午前十時開議

日程第一 會議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

一二七番番番
 〇二七
 番番番
 中村省吾
 小柴孝
 白熊盛太郎

助役 田山伝
 秘書課長 太田博
 財政課長 谷川広
 税務課長 越路良夫
 教育委員 長谷川治
 庶務課長 汐崎政光

事務局局長補佐 高尾豊
 書記 錦織睦子
 書記 川上義雄

- 日程第三 報告第一号 館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分報告について
- 日程第四 議案第五十一号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について
- 日程第五 議案第五十二号 昭和四十六年度館山市一般会計補正予算(第一号)
- 日程第六 議案第五十三号 人権擁護委員候補者の推薦について

開 会 午前十時四十八分 開 議

○ 議長 (西村真次君) 本日の出席議員数二十二名、これより第二回市議会臨時会を開会いたします。

出席説明員の報告

○ 議長 (西村真次君) 本臨時会の議案審議のため、地方自治法第二百二十一条の出席要求に対し、本間市長、畠山助役、高木収入役、太田課長、長谷川課長、小倉課長、越路課長、高木教育長、汐崎課長、吉田課長、伊藤課長以上の者が出席する旨の報告がありました。

議案の配付

○ 議長 (西村真次君) 議案を配付いたします。議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

会議録署名議員の指名

○ 議長 (西村真次君) 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。
本臨時会の会議録署名議員に五番議員藤田益治君、二六番議員秋山六三郎君以上兩名を指名いたします。

会期の決定

○議長（西村真次君） 日程第二、会期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき議會運営協議会の意見は本日一日ということであり、おはかりいたします。会期を本日一日と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて会期は本日一日と決定いたしました。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

提案理由の説明

○議長（西村真次君） 本臨時会招集にあたり市長のあいさつを求めます。

（市長本間 譲君登壇）（拍手）

○市長（本間 譲君） ただいまから提案理由につきまして御説明を申し上げます。

本日、ここに第二回臨時市議會を招集し、急拠御審議わずらわします案件は、第六十五国会におきまして制定公布されました地方税法の一部改正に伴う市税条例の一部改正及び同条例の一部改正の専決処分報告のほか、一般会計補正予算及び人權擁護委員候補者の推薦がおもな案件であります。

まず、市税条例の一部を改正する専決処分でありますが、第六十五国会におきまして制定されました地方税法の一部を改正する法律が三月三十日に公布され、入湯税の税率の改正規定が四月一日から適用されるのに伴ひまして、急拠三月三十一日に市税条例の一部を改正する条例を専決処分し、四月一日から適用することといたしましたので、議會に報告し、その承認をお願いするわけでございます。

そのほか、今回の法律改正に伴い障害者、未成年者等に対する非課税限度額を引き上げる関係など、市税条例の一部を改正しようとするものであります。

次に一般会計補正予算であります。かねて御案内の一中の移転につきましては、その土地問題について地主と交渉を重ねました結果、市立純真保育園の裏の土地三八、八七九平方メートルの農地を買収できる見通しが立ちましたのでこれが買収費及び土地造成費一億九千五百五十八万八千円のうち、本年度予算として一億三百二十八万円を計上し、この財源は市債を充当しようとするものであり、残り八千八百三十万八千円及びこれに要する関連経費を昭和四十七年度から四十九年度の三カ年で支払う債務負担行為の補正をお願いしようとするものであります。

次に、人権擁護委員候補者の推薦であります。同委員につきましては、市町村長が議会の意見を聞いて推薦した者のうちから法務大臣が委嘱することになっており、去る三月十六日一名の者が死亡退職したのに伴いまして、後任の委員の候補者を推薦しようとするものであります。以上をもちまして簡単な説明を終わりますが、詳細につきましては、関係課長をして説明いたさしますので、よろしく御審議をたまわりますようお願い申し上げます。私の説明を終らせていただきます。(拍手)

○ 議長 (西村真次君) 市長の説明を終わります。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第三、報告第一号館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分報告についていたします。

(書記朗読)

報告第一号 館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分報告について

議案の内容説明

(八)

○ 税務課長 (越路良夫君) 報告第一号につきまして御説明申し上げます。

この専決処分は、館山市市税条例の一部を改正する条例を制定するために行なつたものでございます。条例の改正内容といしましては、入湯税につきましてその税率を入湯客一人一日について二十円を今回四十円に改めるということでございます。これは昭和四十六年四月一日から適用というものでございます。

先ほど市長のほうから説明がございましたように、今国会におきまして地方税法の一部を改正する法律が制定され、去る三月三十日に公布されましたが、そのうち入湯税に関しましては、消防施設の整備資金とするために入湯税の使い道の範囲を従前の使い道に加えて改正されました。なおまた、それに伴いまして税率の引き上げが行なわれ、その適用にあつては、昭和四十六年四月一日以後における入湯に対して課すべき入湯税について適用するとされたものでございます。したがしまして、このような法律の改正に伴いまして、市税条例中入湯税の税率を改正する必要が生じたわけでございますが、三月三十日に公布というような関係、また四月一日から適用というようなことでございましたので、やむを得ずこの改正条例を三月三十一日に専決処分によりまして制定した次第でございます。以上、御了承いただきまして、御承認をまわりますようお願いいたします。

○ 議長 (西村真次君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（西村真次君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議案の上程

○議長（西村真次君） 日程第四、議案第五十一号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

（書記朗読）

議案第五十一号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案の内容説明

○税務課長（越路良夫君） 第五十一号議案につきまして御説明申し上げます。

本案は、館山市市税条例の一部を改正する条例を制定しようとするものでございます。地方税法の一部を改正する法律が法律第十一号として、昭和四十六年三月三十日に公布されましたので、この法律の規定にしたがひまして市税条例中それぞれ所要の整備を行なうものでございます。

今回改正されました地方税法につきましては、税負担の軽減、合理化をはかる。なおまた、課税の適正を期するといふことの所要の措置を講じておりますが、本市に直接関連します事項のうちおもなものを申し上げますと、第一点として、個人の市民税におきまして基礎控除とか配偶者控除等、それぞれの所得控除の額の引き上げ、それから障害者、未成年者等に対する非課税限度額の引き上げがありまして、これらの改正結果によりまして課税の最低限は標準家庭、標準家庭と申しますのは、夫婦と子供三名計五人、この標準家庭で見ますと、十一万九千円余の引き上げとなります。

して、昭和四十六年度の免税点は、非課税限度額ですが、八十六万四千七百七十一円というような結果になります。

なお、個人の市民税中、従前の特別徴収に加えて今回改正されましたのは、年度中途で退職した場合に一括徴収の方法を取れるという扱いが改められました。

それから、第二点といえましては、電気ガス税におきまして免税点の引き上げがありました。それがおまな改正内容でございますが、それでは、市税条例の一部改正につきまして各条文の説明を申し上げます。

まず、第二十四条の改正でございますが、これは個人の市民税の非課税規定のうち障害者、未成年者、老年者又は寡婦で前年中に三十二万円以下の所得の場合は従前非課税でありましたが、これを今回の法改正によりまして年の所得が三十五万円以下はこれを非課税とすると改められましたので、市税条例におきましても同様に非課税の限度額を引き上げるものでございます。

それから、次の第四十四条の改正でございますが、第四十四条は個人の市民税の特別徴収について規定してございます。今回の法改正によりまして給与所得者が年度の途中で退職した場合にそれ以後の月割り税額を特別徴収義務者が一括徴収することができるよう改められたものでございます。しかし、その場合にいつでもその残った月割り額を一括徴収することとは、一時に納める税金が多く、負担が過重になるということ等の理由によりまして、当該年度の翌年の一月一日から四月三十日までの間に退職した場合で納税義務者本人からの申し出があり、なおかつ、残った税金の額の金額を五月三十一日までに支払われる退職手当等から徴収することのできる見込みのときに限りまして、一括徴収の方法が適用されることになったわけでございます。また、その場合に予定していた退職手当等が全部または一部支払われないことになった場合は退職手当等の支給される額の範囲内で特別徴収することになったわけであります。

それから、次に九十八条、第百三条第一項第四号及び第百十条の二の改正でございます。それぞれの条文の内容としましては、電気ガス税について規定してございますが、これらの規定中、今回改正しようとして第三十一条の規定でございますが、これは地方税法附則第三十一条をさしているわけでございます。この三十一条と申しますのは、産業用

の電気に関する電気ガス税の特例を従前一項から三項までで規定していたわけですが、今回の法改正によりましてこれに第四項を加えまして、無水フタル酸の關係についての特例措置を一年間延長すること、その規定をうたい込んだわけでございますが、これに対応しまして第九十八条あるいは百三条、または百十條の二の關係を、この第四項を除くためにこのように改めまして、関連する規定の整備をはかるうというものでございます。

それから、次の附則第二十三項から最後の第三十七項までの改正につきましては、個人の市民税に関する特例規定を設けまして、前年度の所得税の改正に伴うところの関連規定を整備しようとするものでございます。

この条例につきましては、以上でございますが、この条例は昭和四十六年四月一日から適用するものとしまして、市民税に関する規定につきましては、市税条例中必要な経過措置を附則第二条において規定するものでございます。以上で簡単でございますが、説明を終わりますが、いづれも地方税法の一部改正に伴うところのそれぞれの条文整理でございますので、よろしく御審議のほどをお願いいたします。

○議長（西村真次君）御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○議長（西村真次君）おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君）御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村真次君）御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議案の上程

- 議長（西村真次君） 日程第五、議案第五十二号昭和四十六年度館山市一般会計補正予算第一号を議題といたします。

（書記朗読）

議案第五十二号 昭和四十六年度館山市一般会計補正予算（第一号）

議案の内容説明

- 財政課長（長谷川広治君） 議案第五十二号について御説明を申し上げます。

昭和四十六年度一般会計補正予算の第一号でございますが、今回の補正は一中の校地買収に伴いましたの関係でございます。第一条にお示しをいたしましたとおり、歳入歳出予算の総額に一億三百二十八万円を追加いたしました。歳入歳出の合計額をそれぞれ二十一億八十六万七千円としたい予定のものでございます。

歳入歳出予算の款項の追加額は二ページの第一表でございますが、慣例によりまして歳出の事項別明細書から漸次御説明を申し上げます。

第二条として債務負担行為の追加をお願いしてございますが、債務負担行為はのちほど細かく御説明申し上げますが第二次第一中学校用土地購入費四十七、四十八、九の三カ年間に於いて支払う予定のもので購入費八千八百三十万八千円及びこの取得に要する関連経費でございます。

第三条に地方債の補正をお願いしてございますが、地方債の補正も一中の用地取得に伴うものでございます。起債の基準額と申しますか、一応の基準がございます。坪数で申しますと、六千八百坪ばかりが起債の対象用地ということに相なりますので、その造成費、土地買収費合わせまして一億三百二十八万円を起債対象とし、起債をいただきましてそ

れぞれ歳出の執行をいたしたいということで補正をいたしてございます。

以上で総括的な説明を終わりますので、のちほど事項別明細によりそれぞれ御説明を申し上げます。

○ 教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 六ページから七ページにかけてまして御説明申し上げます。

今回、一中用地として買収を予定いたしております面積は三八、八七九平方メートル一万千七百六十一坪でございますが、そのうち地主の意向をどうしても確かめることができません状態にあります土地が二、八二〇平方メートル八百五十三坪ございます。これにつきましては、親戚の同意を得まして借り受けを一応予定しております。これらの土地につきまして買収いたします類は、協力費、離作補償費こうしたものを含めまして、一応坪当たり一万二千円を予定し、造成のための費用として坪当たり四千円を予定しております。

総体のそれらの坪数のうち、米作の生産調整の二壊として打ち出されました水田債の対象となるものにつきまして、一応六ページの歳出予算の中で取り上げさせていたいただきました。対象外のことを債務負担行為のほうで取り上げさせていただきます。

十款教育費の中の中学校費の中で取り上げました工事請負費、これは水田債の対象となると予定されます六千八百十二坪につきましてその造成費を計上したわけでございます。坪当たり四千円を予定しております。

その次の十七節の公有財産購入費これは坪当りを一万二千円を予定いたしまして借り受け土地四百七十六坪を取り除きまして、六千三百三十六坪を対象としてここに計上いたしました。

それから、七ページの債務負担行為でございますが、これは買収予定の五千四百二十五坪を予定しましたので、買収費六千五百十万円と、その造成費、借り受け予定地三百七十七坪を含めまして五千八百二坪を考案しまして二千三百二十万八千円、計八千八百三十万八千円をここで取り上げさせていただきます。このほか、買収、取得に要します関連経費としましては、現在のところ大体五百五十万程度を予定しておりますが、これを含めますと、大体九千三百八十万円見当になります。これを今後四十七年度から四十九年度に至ります三カ年間で返済したい。こう思うものでござい

す。以上です。

○ 財政課長 (長谷川広治君) 以上で歳出を、簡単ですが、説明を終らせていただきます。

引き続き歳入に入りますが、市債として一億三百二十八万円を計上してございます。先ほど御説明を申し上げましたとおり、起債対象の坪数というものが定められておりますので、そのものに対しては工事請負費あるいは財産購入費とも全額同様の水田債が適用されるわけでございますので、歳出同額を歳入面で起債としてお借りをし、歳出の執行をはかりたいということで一億三百二十八万円を市債として計上いたしてございます。

市債の内容でございしますが、借り入れの時期から据え置き期間を含めまして二十五年以内という予定でございしますが大体十八年になる予定でございします。利率につきましては八%以内ということでございますが、現在の予定では五・五%か、五・六%になるという地方債の予定でございします。

以上、歳入歳出追加額が一億三百二十八万円でございます。簡単でございしますが、予算の説明を終らせていただきます。

○ 議長 (西村真次君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採 決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (西村真次君) 日程第六、議案第五十三号人権擁護委員の推薦についてを議題といたします。

(書記朗読)

議案第五十三号 人権擁護委員候補者の推薦について

議案の内容説明

(市長本間 譲君登壇)

○ 市長 (本間 譲君) 人権擁護委員の候補者としていろいろ検討いたしました。欠員とされた方は館山地区でございますので、近い所と考えまして館山市館山千百六十番地の谷野律子君を最も適任者と考えまして御推薦申し上げます。わけでございますので、満場で御了承たまわりたいと存じます。

○ 議長 (西村真次君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

採決

○ 議長 (西村真次君) おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案の通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (西村真次君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

閉

会

午前十一時二十五分

閉

会

○ 議長 (西村真次君) 以上により本臨時会に付議されました案件全部を議了いたしました。よつて第二回市議会臨時会を閉会いたします。

○ 本日の会議に付した事件

一、報告第一号

一、議案第五十一号乃至議案第五十三号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議會議員

館山市議會議員

西村真次
最田益治
秋山三郎

